

第17回八尾市立病院経営計画評価委員会(議事概要)

<1> 日 時: 令和5年8月1日(火) 午後2時30分～午後3時40分

<2> 場 所: 八尾市立病院 北館5階会議室

<3> 出席者

委員長	植野 茂明	(病院事業管理者)
副委員長	福井 弘幸	(病院長)
委員	吉田 裕彦	(八尾市医師会副会長)
	谷田 一久	(株式会社ホスピタルマネジメント研究所代表取締役)
	柘井 敏子	(八尾市民 元八尾市立病院職員)
	佐々木 洋	(特命総長)
	星田 四朗	(特命総長)
	田村 茂行	(総長)
	田中 一郎	(副院長 兼 診療局長)
	藤田 淳也	(副院長)
	神田 ゆか	(看護局副看護局長)代理
	牧 貴生	(八尾医療 PFI 株式会社ゼネラルマネージャー)

<4> 次第

1. 開会
2. 令和4年度の業務状況、並びに八尾市立病院経営計画の実施状況について
3. その他
4. 閉会

[資料]

- (1) 八尾市立病院経営計画評価委員会設置要綱
- (2) 八尾市立病院の業務状況(令和4年度) …… 資料1
- (3) 八尾市立病院経営計画(Ver.IV)の実施状況(令和4年度) …… 資料2

<5> 報告事項

- ・委員の交代等について事務局から報告。

<6> 評価説明・質疑応答・意見交換

- ・資料1の概要及び資料2の構成と評価基準について事務局より説明。
- ・令和4年度の業務状況及び八尾市立病院経営計画の実施状況について、収益部会及び費用部会の各部会長である委員より評価内容を説明後、委員間で質疑応答・意見交換を行った。

(委員)収益部会での検討内容と評価等について説明を行う。

「1. 公立病院としての役割を果たす取り組み」の「(1) 地域医療支援病院としての役割」について、まず、①紹介・逆紹介については、紹介率、逆紹介率、診療情報提供書数は、いずれも目標を達成した。ただし、初診紹介患者数は前年度実績を上回ったが、目標は下回った。目標を達成していない項目があるため B 評価とした。②地域医療連携の推進について、病診薬連携ネットワークシステムの情報共有件数は、目標を上回る件数となり、評価は A とした。③地域医療水準の向上について、当院幹部職員が大阪府下の協会、協議会の役員に就任し、大阪府の医療向上に尽力したことや、地域における委員会や協議会、研修会、意見交換会等の開催が実施できたことから、評価は A とした。④地域への医療情報の提供についても、新型コロナウイルス感染症の影響により市民公開講座や Take!ABIなどが実施できなかったが、令和4年度においては職業体験等の出前講座を実施し、マタニティクラスの WEB 開催、YouTube における当院の情報発信チャンネルを活用した地域住民への情報提供や学校におけるがん教育に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響がある中、可能な範囲での取り組みを実施できたことを総合的に判断し、評価は B とした。

「(2) 政策医療の充実」について、①救急医療は、小児救急も含めた内科外科の救急医療体制を新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも継続することができている。救急患者数、救急からの入院数が目標を達成したものの、救急搬送患者の受入数は目標の数値を下回ったため、評価は B とした。②小児医療は、小児救急医療の輪番制での実施について、体制を継続することができた。またアレルギーやホルモン負荷試験、NICUの病床利用率について前年度実績を上回っている。レスパイト入院受入も再開し、さらに発達障がい専門医療機関ネットワーク構築事業での研修会を実施するなど取り組みを進めた。以上のことから、評価は A とした。③周産期医療は、分娩件数が昨年度より減少し、目標となっている年間 800 件に満たなかった。そのような中で助産外来件数は増加しており、オンラインの分娩立会の活用などの取り組みを実施したことから評価は B とした。

「2. 医療の質の向上に対する取り組み」の「(1) 地域がん診療連携拠点病院としての役割」について、①がん診療の充実については、がん患者数と放射線治療件数、がん相談件数においては目標を達成しているが、その他の項目では目標を下回った。アピアランスケア相談件数や就労支援回数、がん診療地域連携パスの運用数については前年度実績を上回っている。施設面では内視鏡センターの拡充や通院治療センターの整備などを行い、地域がん診療連携拠点病院の指定継続への取り組みの一環として患者用がん関連情報閲覧用 PC の設置を実施したことから総合的に判断し、評価は B とした。②ネットワークづくりと情報提供については、中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会への参加や緩和ケア研修会の開催などとともに、学校と連携したがん教育等を行い、がんに対する情報提供に努めたことから、評価は A とした。

「(2) 医療機能の向上」の①高度手術について、手術の全数および全身麻酔手術件数、

鏡視下手術件数は目標をいずれも下回った。しかし、ロボット手術件数は令和3年度実績を大きく上回ったことや、当院で実施可能な肝胆膵がん・食道がんの高度手術、切断指手術などの実績は高度医療に寄与するものとして評価を B とした。②チーム医療の推進については令和4年度においては 16 チームが活動し、3月には年度内にチームで取り組んだ内容の成果発表を行った。予定されていた活動が行われており、評価は A とした。③院内クリニカルパスについて、指標としている適用率は前年度実績から増加し、目標値を上回ったため、評価はAとした。

「(3)入退院支援の推進」は、入院から退院までの切れ目のない患者支援として、医療ニーズを踏まえた病床の効率的運用に向けた改善策を継続的に検討しており、入退院支援件数は前年度実績、目標値をともに上回った。入退院支援加算算定率も前年度実績を上回っており、令和4年度からは血液内科、糖尿病内科での対応も開始している。これらのことから評価はAとした。

「3. 健全経営の確保に対する取り組み」の「(3) 医業収益の確保」について、①収益性の向上については、年間延入院・外来患者数、病床利用率等で目標を達成できなかった。ただし、入院診療単価、平均在院日数については、目標を上回った。令和4年度には急性期充実体制加算、急性期看護補助加算及び夜間看護職員夜間配置加算の診療報酬対応を行った。以上のことから総合的に判断し、評価は B とした。②診療報酬の確保については、レセプト平均査定率が 0.03 ポイント良化した。また、窓口徴収率については、昨年度実績を 1.6 ポイント上回り、電話および文書による督促件数はともに減少しており総合的に判断し、評価はAとした。

(委員)費用部会での検討内容と評価等について説明を行う。

「1. 公立病院としての役割を果たす取り組み」の「(2) 政策医療の充実」について、④災害医療(健康危機事象への対応)については大規模災害を想定したトリアージ・応急訓練を実施し、大阪府看護協会の災害支援ナースに当院職員が 32 名登録した。新型コロナウイルス感染症に対応する体制を維持し、PCR 検査、抗原検査やワクチン接種の実施を行うとともに、状況に応じて対策マニュアルの更新を行った。大阪コロナ重症センターへ派遣する看護師の人員確保行ったことなどを総合的に判断し、評価はAとした。

「2. 医療の質の向上に対する取り組み」の「(2) 医療機能の向上」における、④医療 IT 技術の活用については医療の質の向上として放射線科遠隔画像診断システムを導入した。患者サービスの向上のため後方支援の一環としてケアブックを活用することや業務改善のひとつとして電子決裁システムを導入するなど技術の活用に努めている。また厚生労働省のモデル事業としてサイバーセキュリティのリスクアセスメントを実施し、セキュリティ対策の強化を図った。以上のことを踏まえて評価は A とした。「(4) 医療安全の向上」については、ラウンドの毎月実施やマニュアル等の整備に加え情報共有・啓発活動、院内職員のみならず地域の医療機関も対象とした医療安全研修実施を継続して行ったことから、評価はAと

した。

「(5)院内感染の防止」については、感染症対応として、面会制限や電話再診による処方箋の発行、オンラインカンファレンス、オンライン面会等を引き続き実施した。地域における感染防止の取り組みとして情報収集・共有に努めるとともに新興感染症の対応力向上に向け、講演会と訓練を実施したことから、総合的に判断し、評価はAとした。「(6)患者サービスの向上」については、例年通り接遇研修会等を実施し、TQM 活動も継続して行われた。患者満足度調査の結果は、入院患者においては前年度の結果を下回るものとなったが、外来患者と共に高い水準を保っている。ただし、病院ボランティアについては引き続き 19 名の登録があるが、新型コロナウイルス感染症感染防止のため活動を休止している。以上のことから、総合的に判断し、評価は A とした。

「3. 健全経営の確保に対する取り組み」の「(1)医療スタッフの確保と働き方改革」については、①医師について、正規職員数の目標は未達成となり、前年度職員数よりも減少している。会計年度任用職員についても、目標未達成となり、医師の目標数の充足は達成できなかった。医師事務作業補助者は 33 人の配置となり、前年度と同水準を保っている。働き方改革の取り組みとして、医師の時間外労働時間に関する調査分析を行い、宿日直許可取得に向けた相談等を実施した。以上のことを踏まえ、評価はBとした。②の看護師、医療技術員等については、医療技術員、事務職員では目標を達成したが、看護師数が目標を下回った。目標の達成に向け、学校訪問や合同就職説明会に参加するなどスタッフの確保に取り組んでいる。また薬剤業務補助者を 2 名配置するなど労働環境の整備に努めた。以上のことを総合的に判断して、評価はBとした。③医業収益と給与費とのバランスについては、目標値を達成できていないが、昨年度と比較して医療費の増加が、給与費の増加を上回ったこともあり、医業収益に対する職員給与費の割合は昨年度実績より良化している。昨年度の評価はCとした本項目は、改善がみられるため、評価はBとした。

「(2)PFI 事業の継続」は、引き続き医療サービスの向上、患者サービスの向上、コストの縮減に取り組んでいるが、なかでも令和4年度は病理診断医が不在となる時期があり、その期間の迅速病理診断を行うシステム構築に速やかに対応するなど適切に支援いただいた。以上のことに鑑み、評価はAとした。

「(4)材料費の適正化」について、①材料費の適正管理については、後発医薬品指数が 94.4%となり、昨年度より減少したが目標値を達成できている。また院内における患者に対して最も有効で経済的な医薬品の使用方針である、院内フォーミュラリーも6種類から7種類に増加したことに加え、バイオ後続品の導入を実施し購入額削減に努めたことから、評価は A とした。②医業収益と材料費とのバランスについては、材料費が 6,600 万円の増加となったが、医業収益が 10 億 2,900 万円の増加となったなり、医業収益に対する材料費の割合は昨年度と比較し、1.6 ポイント良化とした。目標値を達成したことから、評価は A とした。

「(5)医療機器の整備・更新」について、価格交渉状況のチェックを行いながら適正な価格

購入に努め、様々な機器・システムを更新した。令和4年度は、補助金を活用し、自動遺伝子分析装置を取得し、PCR 検査の充実に努めるとともに、画像管理システム(PACS)放射線治療計画システム、汎用超音波画像診断装置などの高額医療機器の更新を実施した。以上のことから、評価はAとした。

「(6)施設・設備の整備・更新」については、大規模修繕を計画的に実施しており、院内設備として HCU 病棟整備工事、内視鏡・健診センター整備工事、通院治療センター・中央処置室整備工事を実施し、医療機能の充実に努めた。また、患者サービス向上のひとつとしてひかり電話・音声ガイダンスを導入し、以前から様々な意見のあった電話が繋がりにくい問題に対応した。以上のことから、評価はAとした。

「(7)省エネルギーの取り組み」については、照明の LED 化やパッケージエアコンの更新を行うことで省エネルギーに取り組んだ。とくに電気使用量については前年度より減少しているが、原材料の価格転嫁などによる原油価格・物価価格の高騰等の単価上昇の影響を受け、使用金額については大幅な増加となった。省エネ法において前年度比1%削減が目標となっている「エネルギー使用原単位」は昨年度比 4.2%の削減が実現され、事業者クラスにおいて A クラス維持ができたことから、総合的に判断し、評価は A とした。

(委員)資料1の1ページめ冒頭にある「大阪府の要請、市保健所及び地域の医療機関からの依頼に基づいて」との文言については、本来の八尾市立病院の存在意義と照らし合わせると違和感を覚える表現となっている。八尾市立病院の思いが凝縮されているであろう冒頭の文章であるため、貴院が果たしてきた役割に基づいて、文言の再考が必要と感じた。また同じく資料1の1ページめ下段(2)経営状況内の「現時点では健全経営を維持しているものと総括している。」の部分に続く段落の記載についてははっきりと明確な方向性を示すべきものと思う。ここに関しても冒頭の箇所と同様に違和感を覚えた。補助金と経費の関係性についての言及がないため、外形的な黒字、赤字の評価になっており、単純な比較ではなく資金の流れ・ストーリー性についての記載があればよりよいのではないかと考える。加えて、今後のことを考えると、PDCA サイクルを進める中で、今ある指標での先行するもの、またその後続していくものの整理が必要だと感じた。資金に余裕のある今、後続的な数値が提示されている計画値の先行的な要因・指標について探る必要がある。パラダイムの創造が現在の八尾市立病院では可能だと考える。次期計画ではそういった新たな指標を提示できるのではないかと。また新型コロナウイルス感染症がまん延していたこの3年間は公立病院としての公共意識が非常に高く、常に変化に対応し続けてきたと思われるが、未来のためにも現場での対応した内容について記録を残しておくべきだと考える。

(委員)紹介患者が落ち込んでいると聞いているが、資料2における数値を見ると落ち込んでいるわけではないとも読み取れる。新型コロナウイルス感染症の影響はそれほど大きく受けて

いないように見受けられるがどうか。

(副委員長) 落ち込んでいるのは初診紹介患者数であり、策定した計画値からは乖離している。地域の医療機関の方へ声掛けさせていただいているのは初診紹介患者を新型コロナウイルス感染症まん延前までの水準に戻そうとの意識からである。

(委員) 補助金の要因もあるが令和4年度は黒字という実績なので今後もうまく運用していただきたい。在宅医療についての対応も将来的に検討をお願いする。

(委員) 計画値は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前のものであり、B 評価もいくつかみられるが、目標達成に向けて、よく対応されていると感じる。新型コロナウイルス感染症の影響を加味したものに變更していれば、その新たな目標を達成できている水準になっているのではないかと感じる。医療の質についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、制限がある中でも向上しているということをもっと評価すべきではないか。病床利用率も新型コロナウイルス感染症対応以外の病床をより有効に利用できている限界値に近い数字になっているように思う。がん患者の手術件数等の達成できていない項目も感染防止や計画的な手術実施を鑑みるとやむを得ないと思えるし、前年度に比べ新型コロナウイルス感染症の影響について記載が増えたこともあり、その影響を踏まえた評価を改めてすべきである。八尾市立病院は診療局、看護局、事務局などスタッフ全体のチームワークが良い病院だと感じているので互いの部署で切磋琢磨することでより良くなっていくと思う。またこれは PFI 事業の方々の大きな協力もあっての結果であり、互いの現在までの積み重ねの結果でもある。新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症の扱いに移行したが、感染患者が一概に減少するわけでもなく、以降も変わらずの対応が必要なので、今後も引き続き取り組んでいただきたい。

(委員) 新型コロナウイルス感染症まん延前と後では大きく変わっている。それぞれの指標において、まん延以前の水準に戻すべきものと、改めて戻すだけでなく、再考すべきものがある。変化があったものについては評価軸を変えて行動を示さないといけない。資金に余力のある今しっかりと解析し、次期計画の評価項目を示していきたい。

(委員) コロナバブルといわれる現在、補助金と医業収益の内訳分析は難しいものではあるが、改めて見直す必要はある。今後の公立病院の進むべき方向性については、常に考えてはいるが、やはり目の前にある収支に注目しがちな面はある。経営健全化志向となっているのでポストコロナを見据えたこの時期に評価項目は見直すべきであると思う。

(委員) 次期計画では、従来指標では見えていなかった公立病院の本質がみられるような指標を提示してもらえればと思う。基軸は変わらず前に進もうとしている病院であるのでぜひ今後とも頑張ってもらいたい。

(議事終了)